

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

※整理番号：3

企画名	家具展 2014 ～モノづくり／ヒトづくり～
実施日	平成 26 年 11 月 1 日（土）～ 平成 26 年 11 月 2 日（日）
実施場所	工学部コミュニケーションギャラリー（通称ガレリア）
企画代表者の氏名，所属	氏名：長廻拓史 所属：広島大学大学院工学研究科建築学専攻
構成員の氏名	長廻、高橋、岡野、宮田、黒木、程、田中、島田（大学院一年） 加藤、徳本、後藤（学部四年） 鈴木（学部三年） 伊勢本、芦田、河合、松下（学部二年）
指導的立場の教員氏名	岡河貢
企画の目的及び内容	<p>企画の目的及び期待される効果</p> <p>家具展を開催し、製作者、来場者が家具作りを通してもの作りというものを身近に感じてもらうことを目的とします。また、他分野の学生や来場者の方と知識や技術を相互に伝え合い、分野を超えた交流ができると考えています。</p> <p>自分で実用的な家具を作るということは形の創造だけにとどまらずに、モノに対する愛着・コストダウン・作業時においての人との出会いなど様々なメリットが期待されます。また、普段使用している学校の家具を自分たちで修繕します。このことで、家具を大切に使い続けていくという意識を養えると考えています。大学祭で実際に製作した家具を展示し、製作者が来場者に対して作品の説明を行います。更に手軽な家具作りを体験できるイベントを開催し、来場者も積極的に企画に参加できるようにします。このようにして、家具展では製作者、来場者共に家具作りを通して、様々な人と出会い、もの作りを生活の中での身近な存在としてとらえることが出来ると考えます。</p>
来場者数	150 人以上（親子連れが多く、小さいお子さんに喜んで見てもらえました。）
主催・後援団体（外部のコンテスト等に参加する場合は、そのコンテストの規模）	木工野郎 A チーム（工学研究科建築学科専攻によるグループです。）
活動の内容（準備，広報活動，当日の様子等）	<p>家具製作は約三週間前から開始しました。18 時以降ほぼ毎日 4～5 人程度が、家具の制作を行いました。制作に用いる器具の使い方（トリマーやサンダーの使い方、のこぎりの引き方 等）は建築学生が中心に教えました。建築学生以外にも毎年参加して頂いている学生は、工具の使い方・容量も分かっている、他学部・多学年との交流が用意でした。お互い何を作っているのかや、こうすればもっとよくなるのでは？などの話題が多く、非常に楽しく制作できました。制作に時間をかなり使ってしまったため、広報用のポスターによる張り出しが遅かったように思えます。もう少し事前にポスターによって告知するべきでした。ただ当日の見学者は予想していたよりもかなり多く、想像以上に賑わいがあり良かったです。今年は展示している家具の中に、実際に触ったり触れたりできるものも多くあったため、関心を引くのに大きく影響したのだと思います。展示してあるものが欲しいという方や、売り物かどうか聞く方等もいらっしや、制作側としてもとても嬉しい展示会となりました。</p>

「学生のおもしろ企画・大学祭企画」実施報告書

アンケートの結果（来場者にアンケートを実施した場合のみ）

76組の団体にアンケートを頂きました。一部抜粋します。
テレビ台「シンプルで普通に使いたくなる」「竹串で止めているのが新しい！」「繊細で美しい」
凸凹ラック「売り物かと思いました」
時計「我が家のリビングに合いそうな雰囲気なので」
サイドテーブル「金具を使わず木組みだけで作っているのがびっくりしました」
木馬「とってもかわいくてお家にこっそり欲しいなあと思いました」「工夫していて長く使える想像力がすごい」
本棚「本を斜めにおくアイデアが面白い！」
木のベッド「和風建築によくあう！」
ゴミ箱「スライドがついていてゴミを隠せそう」
黒板時計「珍しいアイデアだなと思いました」

成果・課題

お子さん連れの方に特に見て頂くことが出来ました。実際に手作りでもどこまでのものが出るのか、小さいお子さんに見せる機会があるのは、「自分も大きくなったらやってみたい！」と好奇心を育むのにとっても良いことなのではないかと感じました。また制作者側としても、自分たちの作品を多くの方に見てもらえる場というのは、どうすればより良いものが作れるのか、人はどのようなものを欲しいと思うのかなど直に感じる事ができ、ものづくりに大切なことを再認識する機会となりました。また制作においては今年は、あまり金物に頼らず、木組みを重視して作る事ができました。木の家具の特性を生かした良い作品が多かったのも成果だと思います。

課題としては、例年展示については各々が好きなものを作る形を取っていますが、これからはある程度テーマを決めて作成しても良いかもしれません。「全員で一人暮らしの寝室をコーディネート」など共通のテーマで行った方が、展示に迫力とまとまりができ、より見応えのあるものになったかもしれません。

実施風景（写真）

